

1. 単元名 Better Choices. A Better World. 「責任のある選択の自由」
Unit3 Fair Trade Event (New Horizon English Course 3 (東京書籍))

2. 単元について

本単元では、「フェアトレード」が主題となっており、発展途上国の人々の生活の様子やフェアトレードの仕組みなどが紹介されている。具体的には、ガーナのカカオ農場で働く子どもたちの状況と、そうした人々の生活環境を改善するためのフェアトレードの仕組み、さらには世界の実態を踏まえて私たちが取るべき行動についての提言が示されている。登場人物の一人は、緑市で開かれたイベントを通してフェアトレードを知り、自分たちには今何ができるのかということについて意見を述べている。人権や国際貢献について考えるきっかけを与えてくれる題材であると言える。

言語材料としては、Unit2に引き続き現在完了形の文を扱っているが、本単元では「経験用法」と「完了用法」の文が取り上げられている。既習の「継続用法」との違いも意識させながら、動詞の形や意味などに注意を向けさせたい。また、不定詞の「原因を表す副詞的用法」の文も扱われている。

3. 生徒の実態について

本校の生徒は、中学校1年生の社会科でフェアトレードに触れており、その名称や仕組みについてはある程度の知識を有している。一方で、学校周辺にはフェアトレード認証を受けた製品を扱っている店舗があるものの、その数が非常に限られており、実生活でフェアトレード商品を目にすることはほとんどないため、身近なものであるという認識はないだろう。補助資料で補いつつ、これまでに得てきた知識と生活経験を活用させれば、意欲をもって題材について読むようになり、教科書テキストに込められたメッセージを読み取ることが可能であると考ええる。

これまでに行ってきた表現活動で、「～したことがある」「～に行ったことがある」といった現在完了を用いるべき表現に何度か触れてきた。生徒たちは、現在完了の形・意味・用法については少なからず知識を有しており、その有用性についても感じ取っているだろう。言語活動においては、その習得を目指し、意欲的に取り組む生徒が多いと考える。

普通の授業において、ペアや4人グループでコミュニケーション活動を多く行っており、生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいる。個人で行う学習活動よりも、クラスメイトと意見を交換したり議論したりする学習活動の方が活発である。ただ、失敗や間違いを避ける傾向にあるため、正誤が問われるものや表現の正確さに自信がもてないものについては、活動が消極的になってしまうことが予想される。発問づくりや表現に必要な語彙や文法については、工夫が必要となるだろう。

4. 単元の指導について

(1) 全体研究との関わり (「見方・考え方」を働かせた学びを通して身に付けた資質・能力を見取るための工夫について)

全体研究で目指す「新たな世界を主体的に創造する生徒」を育成することを、本校英語科では、「言語や文化を他者との関わりから捉え、目的・場面・状況等に応じて情報や自分の考えなどを伝え合う言語活動を通して、『コミュニケーションを図る資質・能力』を高める生徒」を育成することと言い換える。つまり、外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせた学びを通して、『伝える力』の育成を目指す。

本単元における「見方・考え方」を働かせた学びについては、以下のように整理する。

カカオ農園で働く子どもたちの状況とフェアトレードの仕組みを理解することを通して、普段行っている「ものを買う」という行為が、世界を変える可能性を秘めているということを認識し、様々な人が目にする新聞へ自分の意見を投稿するという場面において、身近にできる世界貢献について自分の考えを整理し、まとめ、表現するような学び。

上記の「見方・考え方」を通して生徒が身に付けた資質・能力を見取るために、単元の最後にはパフォーマンスを伴う課題を設定する。生徒のパフォーマンスを評価するために、具体的指標を示したルーブリックを用いて、教師だけでなく学習者である生徒自身にも評価ができるようにする。また、ポートフォリオを用いて毎回の授業で学んだことや考えたことなどを書き留める。そうすることで、教師が学習者の学びを把握したり学習者自身も自らの学びを振り返ったりすることができるようになる。単元の最後に取り組むパフォーマンス課題においても、自らの考えを整理・構築、あるいは再構築する際に活用することができる。具体的な評価方法については後述する。

(2) 教科研究との関わり (『伝える力』を育むための対話的な学習活動の工夫について)

①世界の問題が自分たちの生活にも身近な問題であることとして捉えさせる

生徒にとって、チョコレートは身近なものである。しかし、原料であるカカオや主な生産地であるガーナについては、あまり知られていない。知っていたとしても身近ではない。本単元で紹介されている発展途上国

の状況についても実生活で触れることのできない、まさに「遠い国」の話である。フェアトレード商品についても実際に目にする場面はあまり多くない。題材と生徒の間にある隔たりを埋めることができなければ、主題について真剣に考えることは難しいだろう。買い物という身近な行為が生産者である人々に影響があることに着目させるとともに、昨今よく耳にする過労死や所得格差などといった問題にも目を向けさせたい。そうすることで題材に対する当事者意識が高まり、テキストに真剣に向き合えるようになると考える。

②テキストを経験則や背景知識に照らし合わせて読ませる

本単元では現在完了形（経験用法・完了用法）と不定詞（原因を表す副詞的用法）が言語材料として扱われる。「～したことがある」や「～して…だった」といった経験を踏まえて感じたことなどを表現することができるようになる。言語材料の導入では、フェアトレードやガーナのことなどについての経験則や背景知識を問う現在完了形を用いることで自然な言語使用場面をつくることができるだろう。単元末に取り組むパフォーマンス課題においても、生徒が意識的に新出言語材料を用いることができるようになることを期待する。さらに、本単元のテキストを読む際には、発問を工夫したい。先に述べたように、本単元で扱っている内容は非常に複雑であるため、テキストにある情報量だけでは内容を正確に理解することは難しい。生徒の経験則や背景知識を引き出す発問を繰り返し、行間を埋めながら理解を深めていく必要があると考える。

③単元を通して身につける資質・能力を意識させる

主体的な学びを促すために、生徒に見通しをもたせる。本単元の最後に行うパフォーマンスを伴う課題とその評価規準を単元の最初に示すことで、本単元で学ぶ内容や身に付ける知識や技能などを意識させることができるだろう。身近で実際的な場面を設定し、単元を通して学んだ言語材料や題材に関する考えなどが表出されるようなタスクを課す。生徒のパフォーマンスは、客観的な評価規準に照らし合わせて評価され、教師も学習者自身も単元の学習の成果を振り返ることができるだろう。

④自分の考えを可視化させる

毎回の授業で学んだことや感じたこと、考えたことを記録させる。そうすることで、学習者自身は自らの学びの振り返りを行うことができ、題材についての考えを深める資料にもなる。教師は、生徒の学びを把握し、自らの指導の振り返りにも活用することができる。また、パフォーマンス課題においては、生徒は学びの記録をもとに自らの意見を構築する際の足がかりにすることができるだろう。生徒のパフォーマンスには表出しな部分を見取ることで、多面的に評価することができるようになると考える。

5. 単元の目標

- ・現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の形、意味、用法に関する知識を身につけ、これまでに経験したことやすでにし終えていることについて述べたり尋ねたりすることができる。
- ・不定詞（原因を表す副詞的用法）の形、意味、用法に関する知識を身につけ、理由を添えて気持ちを述べることができる。
- ・フェアトレードの仕組みを理解し、身近にできる国際貢献について考えを深め、読み手に伝わる語彙や文章構造を選択して自分なりの意見を表現することができる。

山梨大学教育学部附属中学校 CAN-DO リスト（平成30年度 NEW HORIZON 対応）との関連

	外国語理解の能力 WRITING（書くこと）
3年生	○身近な話題や社会的な話題について、読み手を意識しながら自分の考えを述べたり、まとまりのある英語を書いたりすることができる。

6. 単元の評価および指導計画

(1) 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①世界の問題について主体的に考えようとしている。 ②読み手に自分の意見が伝わるように表現しようとしている。 ③まとまりのある英文を読んで、書き手の意向を理解しようとしている。	<書くこと> ①読んだことをもとに、自分の考えを適切な表現を用いて書くことができる。	<読むこと> ①まとまりのある英文を読んで、情報を正しく読み取ったり書き手の意向を理解したりすることができる。	①現在完了や不定詞の正しい用法を理解している。 ②ガーナの人々の生活状況やフェアトレードの仕組みについて理解している。

※各観点の名称については、記述の便宜上、以下のようにする。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ア
 外国語表現の能力：イ
 外国語理解の能力：ウ
 言語や文化についての知識・理解：エ

(2) 評価方法

①自己評価を中心とした学びの記録（ポートフォリオ）

・毎回の授業で学んだことや感想などを記録し、指導者だけでなく学習者自身が自らの学びの様子を把握できるようにする。また、単元を通して「何について」学び、「どのように」学ぶかといった学習の見通しを持たせることで、主体的な学びを促す。

②ルーブリックを用いたパフォーマンス評価

・パフォーマンス課題を評価するための規準として、パフォーマンスの質、量、形式についてルーブリックで示すことにより、単元の学習を通して「何ができるようになる」のかということについて、指導者だけでなく学習者にも把握できるようにする。また、パフォーマンス評価をすることによって、単元の学びを通して身に付けた資質・能力を見取ることができると考える。

(3) 指導計画

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	○現在完了（経験用法）の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・相手の経験の有無について尋ねたり、自分の経験を答えたりする。	エー①	活動の観察 ワークシート ポートフォリオ
2	○現在完了（完了用法）の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・すでにし終えていることやまだし終えていないことなどを相手に尋ねたり伝えたりする。	エー①	
3	○フェアトレードの存在を知る。 ・消費活動について振り返る。	アー①	
4	○フェアトレード商品の価格が高くなる理由を知る。 ・教科書のテキストと補助資料から貿易の簡単な仕組みを理解する。	アー①	
5 本時	○発展途上国における問題点とフェアトレードの仕組みについて理解し、事実から自分の考えを構築することができる。 ・教科書のテキストを深く読み、自分の考えをもつ。	ウー① エー②	
6	○世界の子どもを救うためにできることについて考えをもつことができる。 ・テキストを読み、自分の考えを整理する。 ○不定詞（原因を表す副詞的用法）の意味、形式を理解し、運用することができる。 ・ワークシートを用いて不定詞の用法を理解する。	アー① ウー①	
7	○教科書本文を読むことを通じて感じたことや考えたことについて、まとまりのある英文で書くことができる。 ・読み手を意識して、自分の主張をまとまりのある英文で書く。	アー② イー①	
8	○まとまりのある英文を読んで、書き手の主張を理解することができる。 ・互いの英文を読み合っ、ルーブリックを用いて相互評価を行う。	アー③ ウー①	

7. 本時の授業について

- (1) 日時：平成30年6月30日（土）
- (2) 授業学級：第3学年2組
- (3) 場所：第3学年2組教室
- (4) 本時のねらい：テキストを深く読むことを通して、発展途上国における問題点とフェアトレードの仕組みについて理解し、事実から自分の考えを構築することができる。

(4) 展開

過程	学習活動	教師による支援	留意点
挨拶 (1)	あいさつする	英語の授業に向かう雰囲気づくりをする。	
導入 (9)	<p>Better Choices. A Better World.</p> <p>What does “fair trade” bring to the world?</p> <p>教科書本文を読み、書き手の伝えたいことを理解した上で自分なりの考えをもつ。</p> <p>教科書の挿絵①を見ながら教師の発問に答える</p> <p>教科書の挿絵②を見ながら教師の発問に答える</p>	<p>単元のタイトルを提示する</p> <p>単元を貫く問いを提示する</p> <p>本時の目標を提示し、本時で扱う内容について見通しをもたせる</p> <p>カカオの実がなっている木の写真を提示していくつかの発問をする</p> <p>What are these? Have you ever seen this? Have you ever eaten cacao?</p> <p>カカオ農園で働く人々の写真を提示していくつかの発問する</p> <p>Where are they? What are they doing?</p>	見通しをもっているか
理解 (20)	<p>進出語句の意味と発音を確認する</p> <p>(1st Reading) Q&Aに取り組む</p> <p>教科書を開かず、3つの発問の答えを見つけるように教師の範読を聞く</p> <p>Q&Aに口頭で答える</p> <p>1. unfair 2. No, they don't. 3. fair trade</p> <p>(2nd Reading) T/Fに取り組む(個人→ペア)</p> <p>教師の発問に口頭で答える</p>	<p>新出語句の意味を提示し、発音練習をさせる</p> <p>教科書本文の概要を押さえる発問を黒板に明示する</p> <p>1. What conditions do people in Ghana work under? 2. Do all children in Ghana study at school? 3. What can solve the problems in Ghana?</p> <p>教科書の範読をする</p> <p>生徒の考えを聞く</p> <p>教科書本文から答えを判断させる</p> <p>1. Chocolate is made from cacao. 2. Cacao farm workers can get more money if they work harder. 3. Some children in Ghana have never been to school because they have to work on farms. 4. People in Ghana would get more money if we pay for fair trade products.</p> <p>T/Fの答えを確認しながら教科書本文にある情報を確認していく</p>	

理解 (20)		必要に応じて、補助資料を提示して本文の内容についてのより深い理解を促す	
表現 (17)	<p>(3rd Reading)</p> <p>Tチャートを用いて日本とガーナの労働状況を比較する 個人で考えたものを4人グループで共有し、全体で共有する</p> <p>教科書本文の情報をもとに自分なりの考えを口頭で発表する</p>	<p>1. What do “unfair” conditions mean? For example?</p> <p>2. What does the author want to tell? Why do you think so?</p> <p>生徒の発表を振り返り、コメントをする I think these differences are very important. They should come true in our world. What will you do or act for that? You can make a difference.</p>	
まとめ (3)	<p>授業で感じたことや考えたことを日本語でワークシートに書き留めておく</p> <p>次時の学習内容を確認する あいさつする</p>	<p>ポートフォリオに感想を書かせる</p> <p>あいさつする</p>	